

立命館大学 2026 年度後期分割方式 数学対策講座

● 入試傾向分析

出題範囲 . . . 数学 I II III AB(数列) C(ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面)

出題形式 . . . 大問 4 題, 試験時間 100 分, 空所補充形式

難易度 . . . 入試標準レベル

出題傾向 . . . 難問奇問はなく, 標準的な問題に誘導をつけて出題される。参考書などで見かけないような非典型の問題はあまり出題されず, 典型問題や有名事実を題材にした問題が中心で, どちらかというところ、思考力よりも分量の多い計算を素早く処理する力が求められる問題が多い。誘導が非常に丁寧なので, しっかりと誘導の意図を意識しながら解き進めていきたい。空所補充形式であるものの, 全体的に分量が多いため, 100 分という時間は決して余裕の持てる時間ではない。したがって, 解けそうな問題から要領よく解いていくことを心掛けよう。典型問題が多く, 完答を目指せる大問も 2 題程度は含まれていることが多いが, 各大問の後半の問いにはやや計算が煩雑な問題や思考力の要する問題が含まれていることもある。また, 大問の中でさらに小問に分かれている場合は, 例えば, [1]の問題で手が止まっても, [2], [3]の問題は単独で解ける場合もあるので, 途中で手が止まっても後ろの問題は必ず確認するようにしよう。

例年, **解析学**(極限, 微分積分), **離散数学**(数列, 整数, 場合の数・確率など, 離散変数を扱う分野), **幾何学**(平面・空間図形, 図形と方程式) についての問題がバランスよく出題されており, 図形的考察力と計算力を要する問題が多い。

● 年度別出題分析

年度	全体の難易度	番号	範囲	項目	講評
2025	易	[I]	Ⅲ	微分法, 積分法	全体的に取り組みやすい問題が多く, 分量も例年より少な
		[II]	A	場合の数, 確率	かった。[I], [II]は全体的にかなり易しいので完答を目指
		[III]	A, B, Ⅲ	数列の極限, 場合の数, 数列	したい。[III]は[1](ウ), (エ), [2](ク), (ケ), (コ)で,
		[IV]	C	空間ベクトル	[IV]は(オ)以降で差がついたと思われる。
2024	やや易	[I]	A	平面図形	どの大問も標準的な難易度であるが, いずれもやや分量が
		[II]	A	確率	多い。[I]は[1], [2]は基本的であるが, [3]は図が複雑で
		[III]	C	2次曲線	やや難しい。[II]~[IV]は, やや作業量が多いが, すべて
		[IV]	Ⅲ	微分法, 積分法	標準的な典型問題なので, なるべく完答を目指したい。
2023	標準	[I]	A	場合の数・確率	どの大問も標準的な難易度であるが, いずれもやや分量が
		[II]	A	整数の性質	多い。[I]は[1]は基本的であるが[2]はやや作業量が多い。
		[III]	Ⅲ	微分法, 積分法	[III]は(エ)~(カ)はやや面倒だが, その他は完答したい。
		[IV]	Ⅲ	積分法	[III], [IV]は類題経験の有無で差がついたと思われる。
2022	標準	[I]	I, A	集合と命題, 整数の性質	全体的に誘導が丁寧で典型問題が多く, 実力差が反映され
		[II]	II	三角関数, 微分法	るセットであった。[I], [II]は基本事項の確認と典型問
		[III]	Ⅲ	微分法, 積分法	題であるからともに完答を目指したい。[III], [IV]は後半
		[IV]	B	数列	部分はやや難しいが, 前半部分は確実に処理したい。
2021	標準	[I]	I, II	2次関数, 図形と方程式	全体的に誘導が丁寧で煩雑な計算を要する問題もないが
		[II]	II, Ⅲ	図形と方程式, 極限	[II]はアポロニウスの円, [III]は完全順列に関する知識の
		[III]	A, B, Ⅲ	場合の数・確率, 数列, 極限	有無で差がついたと思われる。[I], [IV]は確実に完答し,
		[IV]	I, Ⅲ	三角比, 微分法	[II], [III]も前半部分は確実に処理したい。

● 年度別合格者平均点(数学:100点満点)

学部	学科	2025	2024	2023	2022	2021
理工	数理科学科数学コース	71.0	81.0	69.8	64.5	51.3
	数理科学科データサイエンスコース	75.3	72.7	62.5	57.5	51.5
	物理科学科	68.4	68.6	60.6	52.3	49.2
	電気電子工学科	68.7	60.7	55.3	53.7	49.1
	電子情報工学科	76.0	80.0	60.1	55.7	70.2
	機械工学科	68.0	52.8	69.1	49.2	53.3
	ロボティクス学科	64.4	64.4	65.3	49.7	64.6
	環境都市工学科	70.8	57.3	68.6	55.1	47.3
	建築都市デザイン学科	80.3	72.6	74.0	63.3	58.0
情報	情報理工学科	86.8	66.0	70.2	58.4	55.2
生命	応用化学科	73.0	62.9	52.7	51.2	52.6
	生物工学科	73.4	70.5	51.2	54.1	47.0
	生命情報学科	67.3	55.9	56.3	52.5	47.7
	生命医科学科	73.0	59.4	57.0	73.2	58.8
薬	薬学科	74.2	69.0	57.0	58.7	53.2
	創薬科学科	63.4	55.6	50.0	53.5	47.3

● 戦略

合格最低点は学部学科，あるいは年度により 5 割～8 割とかなり差はあるが，数学に関しては **7 割以上を目指したい**。前述の通り，標準的な問題に丁寧な誘導をつけて出題されることが多いが，中には思考力を要する問題や煩雑な計算を要求される問題もある。そのような問題になるべく多くの時間を割けるように，まずは各大問の前半部分の易しい問題をすべて解き切り，後半の設問については，解けそうな問題から取り組むなど，要領よく解いていくことを心がけたい。

やや難しい問題以外の標準的な問題を計算ミスなく確実に処理できれば，7 割以上獲得することは十分可能である。

● 年度別合格最低点 (2 教科:200 点満点)

学部	学科	2025	2024	2023	2022	2021
理工	数理科学科数学コース	147/200	160/200	134/200	123/200	88/200
	数理科学科データサイエンスコース	163/200	144/200	128/200	115/200	97/200
	物理科学科	147/200	142/200	125/200	100/200	89/200
	電気電子工学科	135/200	118/200	122/200	98/200	92/200
	電子情報工学科	160/200	159/200	132/200	104/200	139/200
	機械工学科	131/200	101/200	147/200	90/200	108/200
	ロボティクス学科	125/200	133/200	133/200	86/200	136/200
	環境都市工学科	139/200	118/200	138/200	108/200	96/200
	建築都市デザイン学科	154/200	142/200	157/200	122/200	124/200
情報	情報理工学科	168/200	129/200	145/200	112/200	115/200
生命	応用化学科	147/200	124/200	113/200	95/200	105/200
	生物工学科	147/200	124/200	107/200	106/200	93/200
	生命情報学科	143/200	117/200	125/200	97/200	95/200
	生命医科学科	143/200	119/200	109/200	123/200	113/200
薬	薬学科	148/200	155/200	124/200	113/200	102/200
	創薬科学科	125/200	108/200	105/200	105/200	95/200

● 対策

① 入試典型問題の解法を確認する

入試典型問題に誘導をつけて出題されることが多いので、入試典型問題の解法については特に頻出分野について一通り確認しておこう。特に数学Ⅲの微積分についての典型問題はしっかりと確認しておこう。その際、問題の解き方を覚える勉強法では、普段と異なる設定で出題された際に対応できるようにはならない。「**解き方を覚える**」のではなく「**頭の使い方、数学的な考え方を学ぶ**」という意識で取り組もう。

② 問題演習を繰り返し計算の感覚を養う

空所補充形式であるので、途中までは正しい解法で正しく計算できていても、最終結果が合わなければ点数にならない。したがって、計算力は高得点を獲得するために極めて重要な要素である。前述の通り、過去の出題をみると煩雑な計算を要求される問題が多いので、試験日までの間になるべく多くの問題を解き、手を動かして計算の感覚を養い、試験当日を万全の状態を迎えられるようにしよう。もし途中で計算を間違えていたとしてもミスを発見できるように、**解く過程で計算結果をこまめに確認、導いた答えの妥当性の確認**は怠らないようにしよう。たとえ試験中に計算ミスをして、試験終了までに正しく修正出来れば減点されることはない。**計算ミスを防ぐためには、計算ミスを発見する技術を身につけることが大事である。**

③ 過去問演習を行う

過去問を解き、立命館大の計算量、難易度をしっかりと頭に入れておこう。過去問を解く際は、時間配分や問題を解く順番などを意識し、本番のつもりで解いていこう。**解けなかった問題については、どの考え方が身につけていなかったかを必ず分析し、「解き方」ではなく「考え方」を頭に入れるようにすること。**さらに、その考え方をういた類題を、他の参考書、問題集を用いて必ず演習を行うこと。そして、再び解けなかった問題をやり直し、それが解けるようになれば次に進む、といった感じで進めていこう。